

自己資本比率の状況

■ 自己資本比率とは

自己資本比率とは、リスクアセット（貸出金などの資産）に対する自己資本（資本金および過去の利益の蓄積等）の割合を示したもので、経営の安全性を示す重要な指標といわれています。

海外拠点を持つ銀行は国際統一基準（BIS基準）により8%以上を保つことが、また、海外拠点を持たない銀行は国内基準により4%以上を保つことが義務付けられています。ふくぎんは国内基準を適用しています。

$$\text{自己資本比率} = \frac{\text{資本金などの自己資本（注1）}}{\text{リスクアセット（貸出金などの資産）（注2）}}$$

（注1）自己資本は、資本金・資本剰余金・利益剰余金などの基本的項目（Tier I）と、劣後ローン・土地の含み益・一般貸倒引当金などの補完的項目（Tier II）とに区分されます。

（注2）リスクアセットとは、資産の各項目にそれぞれのリスク・ウエイト（信用リスクの度合い）を乗じて得た額の合計額のことです。

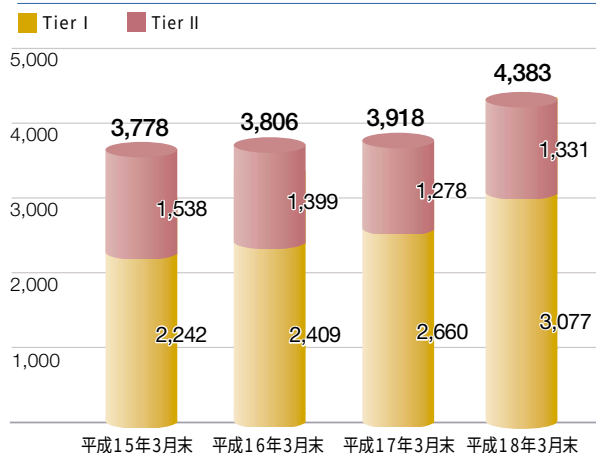
■ 当行の自己資本比率（連結ベース、国内基準）

平成18年3月末の自己資本は、利益の積み上げ等により、前年比466億円増加し4,383億円となりました。このうち、基本的項目であるTier Iは、前年比417億円増加しています。

自己資本比率（連結ベース）は、貸出金等のリスクアセットの増加（前年比+3,148億円）や自己株式取得（約100億円）等の低下要因があったものの、利益による内部留保や劣後CBの普通株式への転換等により、前年比0.38%上昇し9.65%となりました。また、Tier I比率も前年比0.48%上昇し6.77%となりました。

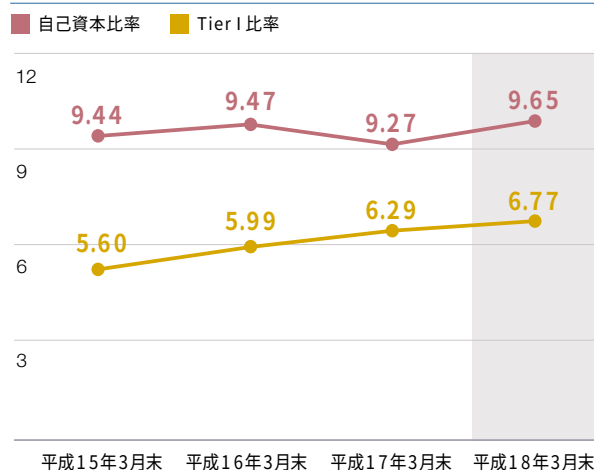
自己資本残高（連結）

（単位：億円）



自己資本比率・Tier I 比率（連結）

（単位：%）



リスクアセット残高（連結）

（単位：億円）

